



●つくしん坊くん、ありがとう

こんな事を言うと、雪国の方々は笑われるが、成人の日に大雪が降り、都心でも8センチもの積雪を記録している。予期せぬ事態に交通渋滞や、歩行中に足を滑らせたケガ人の続出などで混乱をきわめた。

その後も連日、凍えるような寒さが続いており、春は名のみ風の寒さやと、歌詞そのものである。

心身ともに暖かさを覚えるのはかなり先のようにだが、そんな中、春の息吹を伝えるニュースを眼にした。

それは、大雪の翌日の新聞(朝日)に掲載されたもので、「荒川土手につくしん坊」とあり、写真は雪の下から、頭を持ち上げる2本の土筆が写っていた。

まだ大寒を過ぎたばかりである。いくらなんでも早すぎる。都内では早くても二月末だろう、恐らく、そそっかしい土筆が間違えて出て来たに相違ない。

今頃、寒さに震えている。何れに



(高松市/Y・N)

●かわいい息子に

ありがとう

四月から入園する長男の幼稚園の登園日をすっかり忘れてしまい、青くなつて、あまり頼りにしていない主人に「どうしよう」と慌てて電話をしました



すると、「大丈夫だよ。きっと予備の日があるから。」

と主人に言ってもらい、ホッと安心したものの、やはり息子に申し訳なく、

「ごめんね。ごめんね。」と心から謝りました。すると三才になる息子は、

「ママ、だいじょうぶだよ。だっこしてあげるからね。」

と私をやさしく慰めてくれました。息子の成長を感じた瞬間でした。ありがとう。

(高松市/Y・N)

●もちつき大会に

ありがとう

地域でもちつき大会がありました。そこはタクシー会社で毎年おもちをついていて、近所の人たちにつきたてのおもちをふるまってくれます。私もその日を心待ちにし、参加しました。



「べったん、べったん。」おもちをつく音が聞こえてきます。つきたてのおもちにあんこやきなこ、納豆大根おろし等が用意され、自分の好きなものをつけます。お手伝いの人

が、手際よくバットの中におもちを丸めてどんどん入れます。私はあんこやきなこをトレーに入れます。そばには豚汁が用意され、いいにおいが漂ってきます。係の人が大きめの器によそってくれます。白菜やきゅうりの漬物もあります。

みんなもらい、用意された椅子に座り食します。私はおもちがのどにつまらないように汁を飲みながらゆっくりと食べていると、前に座った八十代後半のおばあさんが「この豚汁おいしいね。」と話しかけてきます。

大きなお鍋の中には具だくさんの野菜がたっぷり入って本当においしいです。おばあさんは「家で一人分を作るので、こんなにおいしくなりません。」と言って、おもちをいっしょに本当においしそうに食べます。

トレーの中のおもちは食べきれません。ビニール袋に入れて持ち帰ろうとしたら、小さな子どもたちが大人の人たちにつれられて入ってきました。「子どもさんにはこのおもちをどうぞ。」と言って係の人が手渡

しています。子どもたちは大きな声で「ありがとう!」と言って受け取っています。

みんなが喜んで参加したもちつき大会。タクシー会社の人たち、お手伝いの人たちにも、ありがとうと言いたいです。

(大田区/T・U)

●雪かきをしてくれて

ありがとう

東京にも何十年ぶりの大雪が降りました。

雪はどんどん降り、庭の木も綿帽子をかぶり、きれいな雪景色にしばし見惚れていました。雪はやみそうになく、雪かきをどうしようかと心配をしていました。



夜、大雪がやんだ頃、「大丈夫か?」

と近所のおじさんの声が聞こえました。しかし、玄関に出てみても姿はなく、おかしいなと思ひ道路をのぞいてみると、おじさんがスコップを持っていて、

「明日、凍ると危ないから。」

と言ひ、一生懸命雪かきをしてくれました。

「寒いのに申し訳ない。」と私が言つと、

「おれは雪国育ちだから、このぐらいの雪は平気だよ。」

と言つてくれました。

きれいに雪かきをしていただいたお陰で、我家の前をみんなが安心して通ることができました。おじさん、ありがとう。

(葛飾区/N・I)

●わが故郷にありがとう

義務教育を卒業して故郷を後にし... 銘詩が付き物だ。定年を近くした頃... 孫と語り遊ぶのを最高の楽しみに... 代え難い物がある。逢った瞬間から... 暫くは、何となくちぐはぐな一から... いか、完全な「からいも語」に変わる... にか、完全な「からいも語」に変わる... にか、完全な「からいも語」に変わる...

ゲームだ。... 強いた我が子達には『故郷』が有る... 生が感じるような強烈に覚る故郷が... 感じてしまう。場合によっては、... 「故郷なんてそんなセンチメンタル... だが、不生！」と言われるのだから... はならない大事なものである。わが... 故郷よ有難う。

(船橋市/K・M)

●主人にありがとう

昨年の暮れ、主人と二人で旅行に出かけました。結婚して以来、二人で旅行をしたのは2度目です。山あり谷ありの結婚生活で、主人と旅行することは諦めていた。飛行機に乗って初めて旅に出たことを実感しました。



ツアアで一緒した方たちは私達と同じか少し年上のご夫婦の方がほとんどでした。冬の九州は想像していたよりずっと寒く、霧氷の美しさに感激しました。どこに行っても何を見ても、いつか行けたらと思っていた所に立っていることが不思議で、主人とこんなに穏やかな日が来るんだと何も言えない感覚でした。

(目黒区/A・N)

●新入社員にありがとう

岩手から二十歳になる新入社員が来ました。... 「おはようございます。」... と朝、誰もいない部屋にあいさつをしていきます。不思議に思い、「どうしたの?」... 「聞いてみると、... 「これから今日一日お世話になるので、感謝の気持ちであいさつしていきます。」

今時こんな子がいるのかと、私が感謝の気持ちでいっぱいになりました。新入社員が大切なことを教えてくれたような気がします。ありがとう。(青梅市/K・A)

●義父にありがとう

同居して三十八年になる義理の父は九十六歳になりました。一年相応に見えませぬね。と皆さんに言っていただき、それがまた若さの秘訣のようにも感じます。自分のことはほとんど自分でやり、おしゃれをして元気に出かけ、毎日2万歩のウォーキングは欠かさず、毎月義母の月命日には片道2時間の霊園へ墓参り...



とてもとても義父の真似は出来ないと脱帽です。元気な義父に感謝!(品川区/K・K)

【携帯Deショット】

相続遺産の鑑定評価の依頼を受けて、美術品鑑定士と長野県に向かうことに... 豪雪情報に多少の不安をもち上信越自動車道を走行、雪雲を被った浅間山麓が眼前に広がる。窓の外はマイナス2℃。高速道路は雪もなく快適走行でした。



- 携帯電話の方はQRコードから →→→
●パソコンの方は下記のURLから ↓
http://1039.seesaa.net/
●メールでのご投稿は...
info@holonics.gr.jp



【編集・企画】株式会社ホロニックス総研・編集部

【原稿をお待ちしています。】

本誌は北海道から沖縄まで友人知人から寄せた「ありがとう」のこぼれに因んだ思い出、作文、詩、俳句、短歌、写真、絵画などを掲載します。作品は編集部まで送ってください。投稿いただいた方には、ささやかではございますが、オリジナル「ありがとうメカネ拭き」をプレゼントさせていただきます。皆様からのご投稿をお待ちしております。また、ご自分のお名前や事業所名を刷り込んで、身近な方やお客様へ配布されてはいかがですか?



編集へのご意見やご提案がございましたら是非ともお聞かせください。

